

# がん患者に対して実施したメタバース上での座談会について

2023年7月

株式会社インテージヘルスケア

※本件に対するお問い合わせは  
[pt-solution@intage.com](mailto:pt-solution@intage.com) まで  
(担当：金井・野口)

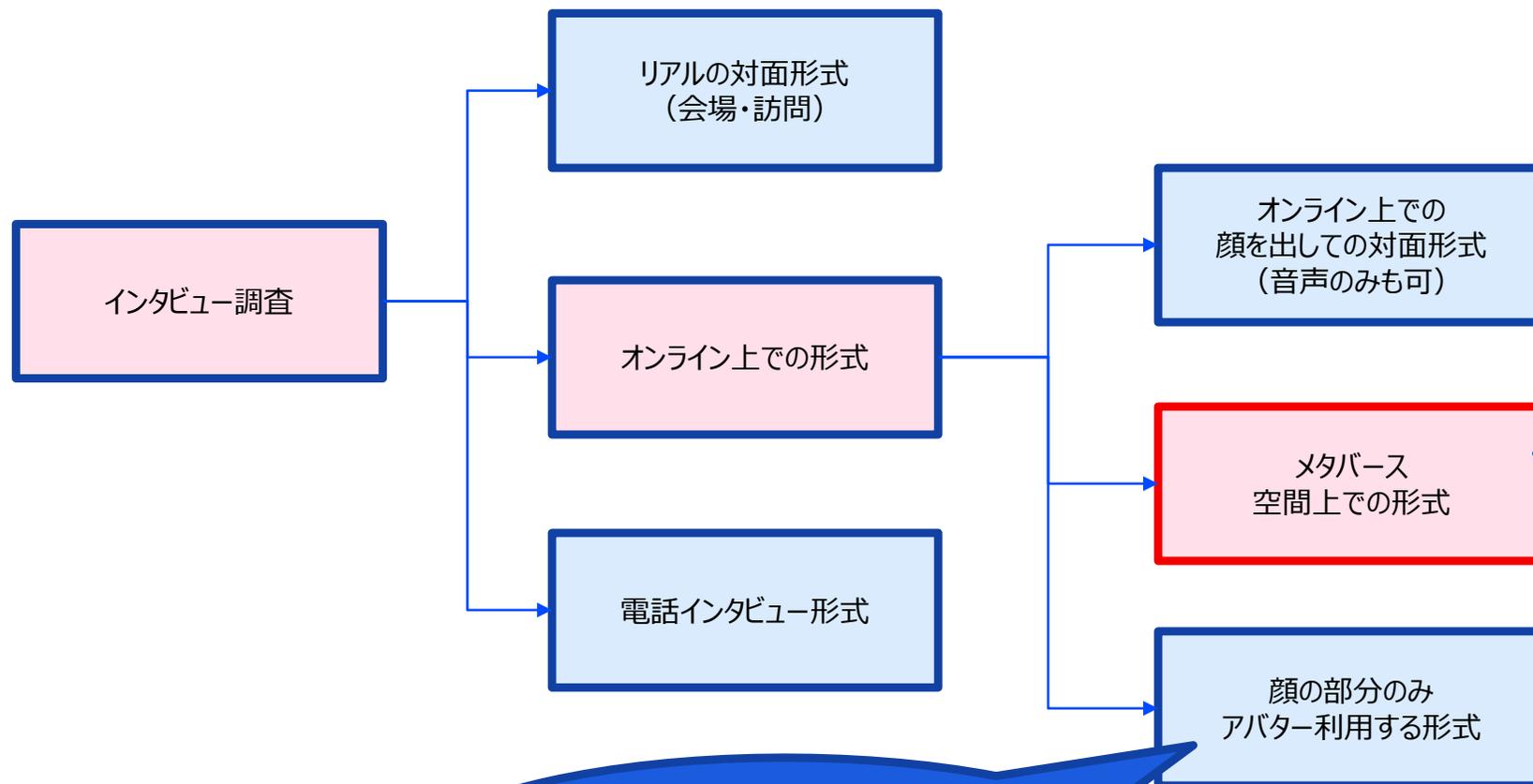


株式会社インテージヘルスケア



# メタバース調査について

# 本調査で実施した「メタバーズ形式の調査」とは



例えば、Webカメラの映像から顔を認識してキャラクターに置き換えたアバターを使用します。目や口の動きや顔の向きにあわせて、リアルタイムで表情やポーズを変えることができます。

最近、医師や患者様にメタバーズ上の会場に訪問していただくイベント等も開催されています。メタバーズ空間内を自由に歩いて回るイベントを開催することも可能です。

# メタバース空間上でインタビュー（座談会）を実施した目的

- ◆ 新しい定性調査手法の可能性を検討するため
- ◆ 疾患や体調等によって顔を出して話をしたくない対象者でも参加可能な方法を検討するため
  - 該当する対象者がいるか
- ◆ インタビュー録画の個人情報情報をそぎ落とし、広く活用する方法を検討するため

※今回はアバターを使うことで画像は匿名化できたが、音声については課題が残った  
これは今後の音声変換技術の向上により、参加者の声を自然に変換することができれば、  
更に匿名性を高め、かつリアリティのある動画を広く活用可能になると考えられる。



# 調査設計

調査手法	メタバース空間（仮想空間）上での座談会 ※メタバース空間へはPC・タブレットを介して参加した						
調査地域	全国						
対象者条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 30～40代</li> <li>● がん患者である（※がん種は問わない）</li> <li>● オンライン上に何らかの居場所があり、情報発信・やり取りをしている</li> <li>● <b>顔を映してインタビューに参加することは不可であるが、顔を映さなくてよいのであればインタビューに参加してもよいという意向がある</b></li> </ul> <p>（↑本件では、これを従来の手法では参加が難しい対象者と定義した）</p>						
対象サンプル	1日目:1グループ（3s）+2日目:1グループ（4s）						
	<b>日程</b>	<b>がん種</b>	<b>年代</b>	<b>就業状況</b>	<b>治療内容</b>	<b>通院頻度</b>	<b>最近3ヶ月の体調不良の頻度</b>
1日目		子宮体がん	40代	パートタイム/アルバイト	手術・ホルモン療法	2～3ヶ月に1回程度	週に1回程度
		卵巣がん	40代	専業主婦	手術・化学療法	2～3ヶ月に1回程度	週に1回程度
		乳がん	40代	パートタイム/アルバイト	手術・化学療法・ホルモン療法	1年に1回程度	体調不良なし
2日目		血液がん	30代	パートタイム/アルバイト	移植・放射線・化学療法	1ヶ月に1回程度	1ヶ月に1回程度
		大腸がん	30代	専業主婦	手術・化学療法	半年に1回程度	体調不良なし
		乳がん	40代	専業主婦	手術・放射線・ホルモン療法	2～3ヶ月に1回程度	週に1回程度
		肺がん	40代	フルタイム勤務	手術	1年に1回程度	2～3ヶ月に1回程度
	※結果として、参加した対象者はいずれも女性であった						
インタビュー日	2023年2月15・18日						
調査時間	90分（+開始30分前に集合し、アバターの操作方法のレクチャーを受けた）						

# 調査対象者の当日インタビューまでの準備と聴取項目

## 当日までの準備

- 当日使用するニックネームを対象者が決める
- メタバー環境での動作確認

## 当日のインタビューまでの準備

- 本人確認
- インタビュー会場で、感情を表現するためのリアクションボタンの操作方法のレクチャーを受け、練習する  
(※拍手、肯定、否定、考え中、ガッツポーズなど)

本調査で使用したアバターの場合、リアルよりも視覚情報が少なくなるため、感情を表現するリアクションを積極的に実施するように指示

## 当日の聴取内容

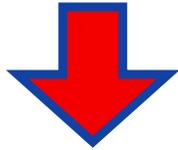
- ご自身がイキイキしていると感じている時  
(※趣味や行動範囲と患者背景の理解)
- オンライン上での自身の「居場所」
  - ご自身の疾患について開示しているか？
  - どこで開示しているのか？
- がん患者に対する勘違いや偏見
  - ご自身が罹患前後で勘違いしていたと思うこと
  - 周囲からの反応で感じる勘違いや偏見
- 生活の中でサポートして欲しいこと
- 他の患者さんに聞いてみたいこと
- メタバー調査に参加してみた感想



# 実際の様子



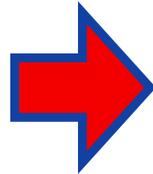
受付



会場へ移動



リアクションの練習



座談会では対象者上部にニックネームが提示され、発言時にはピンク色の表示がなされる

※参加者は自身の視点からの映像のみが見えており、対象者によって見えている映像は異なる  
※従来の座談会のように、今回は椅子に着席し移動を伴う動きはない状態で実施した

※本件は、monoAI technology株式会社の協力により、メタバースプラットフォーム「XR CLOUD」において実施した

## <メタバースについて> 参加したがん患者様の感想

病気はどうしても話しにくい内容だと思うので、顔が見える状態ではなく話をするだけで、**深い内容の話までできた**と感じる。

顔を出さなくて済んだので、**プライバシーに関する不安もなく安心して話すことができた**。また共感されるリアクションボタンが多く、私自身ボタンを押すことも楽しかったし、**人からのリアクションが見られることも嬉しかった**。



一部の患者様の参加への心理的なハードルを下げる方法になり得る

まだ操作になれていない部分があった。途中で誤って画面に触れてしまい、**アバターが立ち上がってしまったのですが、動揺してなかなか元に戻せなかった**。

**表情が見えないので、シーンとしてると少し不安になった**。



メタバース空間の環境（技術）面は課題が残る

# <メタバーズについて> 患者を対象とした本調査の実施を終えて

## 本調査の仕様で確認された利点

- 何らかの理由で顔を映さずインタビューに参加したいという患者はおり、その方たちのインタビュー参加が可能になる手法になり得る。  
⇒通常形式の調査では聴取できない人をリクルートできる。
- 上記のような方であっても、顔を映さないことで自身の体調・疾患や生活に関する点を不安なく話すことが可能な手法である。
- 他の対象者のボタン操作による「リアクション」があることで、楽しみながら参加することができる。

## 実施上の注意点（今後の課題点）

- メタバーズという手法であるため、操作に困難を感じない年齢層や個人に対象者は限られる。
- 「対象者の口の動きとアバターの表情が連動しない仕様であった」「着席しての座談会実施であった」ことで、リアル形式と比較して視覚情報が少ない印象であった。  
⇒リアクションボタンで気持ちを表現することはできたが、その他の工夫や仕様の改善は今後も必要と考える。
- リアルの座談会をメタバーズ上で再現するだけでは、メタバーズの利点を活かすことが難しい。  
⇒メタバーズ空間を移動することにより、参加者同士の対話が生まれやすくなる仕掛けなど、メタバーズならではの設計を考える。



# 聴取内容の結果について（一部抜粋）

# オンライン上での「患者としての他者との関わり」「罹患していることへの開示」について

- ◆ 本調査は、メタバース空間で実施した。座談会中は顔を出したくないという意向を持つ対象者である。患者としてに関わらずオンライン上で居場所がある人を対象者条件としていたが、座談会では「患者として」オンライン上でSNSなどをどのように使用しているのかも確認した。
- ◆ 結果、患者としてもオンラインを特別ではない場所と認識している対象者（③）も確認された。

## ①疾患についての 情報発信の場所

### 啓発活動をしたい

- 周りの人にがん検診を勧めたいと思って、発信したこともある。



## ②疾患について唯一 気軽に話せる場所

### 知らない人だから話せる

- 病気のショックが大きくて、自分だけで抱えきれなかったときに、オンラインでつぶやいた。
- 親が一番ショックだから言えないけど、オンラインなら自分の言いたいことをパッと書き出せる。

### 同じ立場の人と話したい

- オンラインには、不特定多数の人がいて、声をかけてくれる人もいる。
- 「私も同じ病気をしたけど今はこうして暮らしてる」などの話を聞いて、安心したかったのかも。

## ③特別ではない場所

### リアルと明確に区別していない

- 別に知っている人は知っているけど、顔が見えない人はわかっている人もいるかなという感じで。

### 隠しているつもりはない

- あえて病気のことを発信することはないが、中には病気のことを知っている人もいるので、病名を言わずにつ「何年目クリア」とかつぶやいたことはある
- 大っぴらに言いたいわけでもないけど、隠すことでもない。
- オンラインでは病気を告知していないが、あえてというわけじゃない。そう言えばしてない。

## ④疾患については 話しにくい場所

### 顔見知りがいる

- 地元や職場の友達とつながっているのでも、病気のことは一切話していない

### 責任が取れない

- SNSは勝手に情報が伝わる。相手の状況がわからないのに私が言って良いか迷ってしまって開示はしていない。





※本件に対するお問い合わせは[pt-solution@intage.com](mailto:pt-solution@intage.com) まで  
(担当：金井・野口)

## Healthier Decisions

我々は情報に命を与え、医療を享受する人、医療を提供する人、  
健康を願うすべての人々が納得の選択をするための力となります